

指導上の留意点(指導者用)

第1章 人間と社会

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
1. 個人の尊厳と自立	<p>【講義の必要性】 受講者は介護職として、福祉サービスの視点から理解していることである。しかし、初めて医行為を実施することになる介護職にとっては、医療支援の場面において利用者の尊厳を守り、自立を助ける支援について考えることは初めてのことであり、たんの吸引や経管栄養(医行為)を実施する者としての心構えを形成する極めて重要な内容である。</p> <p>【本テキストの内容について】 医療法第1条に記載されている医療の目的、医療の基本理念等の項目から解き明かしている。講義担当者は医療法第1条を読み、理解を深めておいていただきたい。</p>	<p>●「1. 個人の尊厳と自立」「2. 医療の倫理」の項目は、関連深い内容であるため、ひとつの単元として教えることもよい。</p> <p>●どちらも終章的な概念を理解してもらう内容であるため、できるだけ多くの場面を想起して考えてもらえるように、事例を提示して説明することもよい。また、討論で考えを深めることもよい。</p>
2. 医療の倫理	<p>【講義の必要性】 この内容も、医行為を実施する者としての基本的な心構えや態度を形成する原則を指導するものである。小項目では、主たる内容について、「1. 個人の尊厳と自立」と同様に、医療者としての職業倫理や自己決定支援、医療提供上の説明と同意、個人情報保護の保護として説明する。医行為が人の身体や生命に直接、侵襲を与える行為であることを踏まえて、医行為を行う態度や注意点の理解を深める必要がある。</p> <p>【本テキストの内容について】 医療法第1条の四項に医師、歯科医師等の責務として医療を行う者の責務が記載されている。また、倫理については、より具体的に記載している。</p>	<p>●「1. 個人の尊厳と自立」「2. 医療の倫理」の項目は、関連深い内容であるため、ひとつの単元として教えることもよい。</p> <p>●どちらも終章的な概念を理解してもらう内容であるため、できるだけ多くの場面を想起して考えてもらえるように、事例を提示して説明することもよい。また、討論で考えを深めることもよい。</p>
3. 利用者や家族の気持ちの理解	<p>【講義の必要性】 「1. 個人の尊厳と自立」「2. 医療の倫理」の項目は、医行為を行う者としての心構えであったが、「3. 利用者や家族の気持ち、説明と同意」は、医行為を受ける利用者側にたった内容である。利用者のために良かれと考えていても利用者は納得しない場合や、利用者自身が意思の決定や表現することが困難な場合も多い。医行為を実施する者が利用者の気持ちを汲み取ることの重要性を理解し、対応することは、イメージするほど簡単ではない。利用者の気持ちを理解するだけでなく、それらに対する対応についても考えておくことが必要である。医行為の中止などは医師に相談すべきことであり、技術や方法については看護師と相談すると良い。独断で医行為を中止するなどが生じないように、安全性の確保とともに、理解を深めるような学習が必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 たんの吸引や経管栄養を受ける際の利用者の気持ちや対応についてはそれぞれの章で述べられるので、ここでは大きな課題について具体例を用いて説明している。</p>	<p>●利用者の気持ちと医行為を行う者の対応について考えを深める内容であるため、利用者とその家族、医行為を行う者などを決めて、ロールプレイを行うこともリアリティを持って学習する方法である。</p> <p>●参考課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の気持ちを聞き出す方法 ・利用者が経管栄養を中止したいと考えていることが分かった際の対応 ・吸引は〇〇さんにしかやってもらいたくないと言う気持ちがあると分かった際の対応などが考えられる。

第2章 保健医療制度とチーム医療

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
制度 1. 保健医療に関する	<p>【講義の必要性】 介護職員は介護保険制度や障害者自立支援制度などは日常業務で接しているが、保健医療に関する制度に接することは少ないため、制度全般の理解を促すことが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 医療保険、介護保険、障害者自立支援制度等について、分かりやすく示している。</p>	<p>●本項は制度の解説が多いが、知識の習得だけに重点をおくのではなく、 ・各制度の対象となる人(具体例) ・制度利用の手続き(申請窓口) などを具体的に説明し、実際に制度を使う上で必要な点を理解できるように工夫する。 ●在宅では、訪問看護師と連携してたんの吸引等を行うことから、訪問看護に関する制度を説明し、理解を促す。</p>
2. 医行為に関係する法律	<p>【講義の必要性】 「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正が行われ、介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等が、一定の条件の下にたんの吸引等の行為を実施できることになる。実施可能な行為、介護職員等の範囲、研修・登録等について理解し、適切に対応する必要がある。</p> <p>【本テキストの内容について】 医行為の定義や平成24年4月から施行される改正法の内容を重点的に説明している。</p>	<p>●たんの吸引や経管栄養法が医行為であり、危険性を伴った行為であることについて理解を促すため、講師の経験等を踏まえて話すなど工夫する。</p>
携 3. チーム医療と介護職員との連	<p>【講義の必要性】 国は平成22年にチーム医療の検討会を開催し、多職種の医療スタッフがチームを組んで医療を提供することを推進する方針を打ち出した。同時に、各医療スタッフがそれぞれの専門性を発揮し、質が高く、切れ目のない医療を提供することを推進している。介護職員もたんの吸引や経管栄養を行う際には、このチームの一員になることを理解することが必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 チーム医療の考え方やチーム構成職種について説明している。</p>	<p>●チーム医療を行う際のケアカンファレンスなどをロールプレイすることは、リアリティをもった授業展開をできる学習方法である。 ●参考課題としては、それぞれの職員が分担を決める場面などが考えられる。</p>

第3章 安全な療養生活

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
安全 1. たんの吸引や経管栄養の実施	<p>【講義の必要性】 安全に確実なたんの吸引や経管栄養法を実施することは、利用者の生命にとって重要であり、リスクを予防したり、事故に適切に対応することを知っていることが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 安全にたんの吸引や経管栄養法の提供をする重要性を具体的に示し、事故を未然防止する方法と事故の起こったときの対応を述べている。また、ヒヤリハット報告書の必要性と、どのように記載するか詳細に記載している。</p>	<p>●ヒヤリハット事例を示し、受講者が話し合うことで具体的なイメージができるように工夫する。 ●また、ヒヤリハット報告書のフォーマットに具体的に記載されたものを提示するなど、ヒヤリハットの認識について共通認識が持てるようにディスカッションを入れるなど工夫する。</p>
2. 救急蘇生法	<p>【講義の必要性】 救急蘇生法について学んでおくことにより、救急の事態に遭遇したときに、適切な応急手当を実施できるような知識と技術を身につけておくことが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 救急蘇生法の実際について、実際の手順に沿って説明し、注意すべき点やポイントなどを分かりやすく示している。</p>	<p>●研修の場に、消防署の職員に参加してもらい、応急手当についてデモンストレーションをしてもらうなどの工夫をする。</p>

第4章 清潔保持と感染予防

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
1. 感染予防	<p>【講義の必要性】 感染させない、感染しないためには、標準予防策を徹底することが重要である。職員が持つ細菌叢と、利用者の細菌叢は、基本的に異なっているため、常に感染予防に留意する必要がある。</p> <p>【本テキストの内容について】 標準予防策について、具体的な手順・方法を示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な感染予防の手順・方法を理解できるように、手洗いやうがいの実技などを行いながら説明する。 ●手洗い後、試薬を用いて、十分に洗えているかを確認することなども効果的である。
2. 職員の感染予防	<p>【講義の必要性】 感染する、感染させる機会を減らすために、職員自身の健康管理が重要であることを理解する必要がある。特に利用者や家族、職員同士の接触などが多いため、感染源となる細菌やウイルスからの被曝を防ぐことが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 手袋やガウン・マスク等の装着方法を説明し、どのようなケア内容には、どのような防護が必要なものを記載している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●マスクの装着方法や捨て方などをデモンストレーションし、理解を促す。 ●職員の感染予防については、講師自身の体験談等も混ぜて話すといよい。
3. 療養環境の清潔、消毒法	<p>【講義の必要性】 療養環境の清潔の必要性、方法について理解を促すことが必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 居室、トイレ、キッチンなどを清潔に保つ方法や、排泄物・吐しゃ物等の処理、医療廃棄物の処理などに重点をおいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●居室など療養環境の清潔、消毒の必要性の理解を促すため、具体例(シーツに血液等の汚染があった場合にどうするかなど)をあげて、受講生への質問を取り入れるといよい。 ●医療廃棄物の処理の方法は、産業廃棄物業者に依頼することなども含め、具体的に説明する。
4. 滅菌と消毒	<p>【講義の必要性】 消毒と滅菌の違いについて理解し、消毒薬の使い方を習得することが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 消毒と滅菌の違い、消毒薬の使い方と留意点を示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●滅菌された器材を滅菌された状態で正確に使用方法を受講者にわかりやすく説明する。 ●たんの吸引や経管栄養に必要な物品の滅菌、消毒方法について、具体的に説明する(在宅の場合、電子レンジの活用なども説明する)。

第5章 健康状態の把握

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
1. 身体・精神の健康	<p>【講義の必要性】 平常状態について学ぶことにより、どのような状態が健康であるのかを理解することが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「1. 身体・精神の健康」と、「2. 健康状態を知る項目(バイタルサインなど)」は、関連深い内容であるため、ひとつの単元として教えることもよい。
2. 健康状態を知る項目(バイタルサインなど)	<p>【講義の必要性】 介護を必要としている方々は、何らかの身体的問題を有していることを理解し、健康状態の把握の重要性を理解することが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 身体の生理的変化を観察する上で必要なバイタルサインについて、正常値・異常値を含めて説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身体上で問題があればバイタルサインも変化していることについて理解を促す。訪問時にいつもと違っている場合には、関係機関・職種に連絡する必要性の理解を促す。 ●バイタルサイン測定は実技を入れ説明するとよい。 ●介護職は、日常生活の援助をしているため利用者の些細な変化にも気付く機会が多いため、五感を使った観察力の必要性を事例を用いながら説明するのよい。 ●体温の正常と異常、体温の変化を起こす原因等を説明するのよい。

い3. 急変状態につ	<p>【講義の必要性】 急変状態の判断は難しいため、身体のわずかな変化であっても、医療職に連絡をとることが重要であることを理解し、事前準備(連絡網等)の必要性を理解することが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身体状態の変化の具体的な例をあげ、医療職に連絡をする必要があるか、連絡する場合はどのような内容を連絡するかなどのディスカッションをするとよい。 ●具体的な例については、呼吸器と消化器に特定し、医行為に関連したイメージを引き出すとよい。
------------	---	---

第6章 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
1. 呼吸のしくみとはたらき	<p>【講義の必要性】 初めて医行為を実施することになる介護職員にとっては、これまでの教育内容にはなかった知識である。たんの吸引に関連する呼吸のしくみとはたらきを学習することは、安全な実施や危険回避のための基本的な知識である。</p> <p>【本テキストの内容について】 医療職員の場合、解剖学・生理学等の系統的な学習により人体のしくみや機能の知識を習得する。しかし、初めて医行為を実施する介護職員のための学習内容としては、「たんの吸引」に直接的・間接的に関連する内容に限定している。詳細な解剖生理の知識の習得というよりも、習得すべき知識を確実に学習できるようにすることに重点をおいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本項には専門用語(器官の名称や機能など)が多いため、専門用語の説明は、繰り返し丁寧に行う。 ●テキストの文章や図のみでは、しくみ・はたらきはイメージしにくく、理解が困難な場合があるため、「身体のだこの部分がどのようなしくみになっているのか」ということをパワーポイントや板書等で、図を指し示しながら丁寧に説明をする。 ●補足資料等の活用により、具体的な説明をすることは好ましいが、解剖生理の習得内容(用語等)を広げることを目的とせず、あくまでもテキスト内容や用語の確実な理解を促す目的で使用する。 ●特に、難しい用語や重要な点については講義の最後のまとめや、受講生への問いかけ・質疑応答を行う。
2. いつもと違う呼吸状態	<p>【講義の必要性】 第5章「健康状態の把握」や第6章「1. 呼吸のしくみとはたらき」の知識を踏まえて、異常な呼吸状態やたんの吸引の実施・医療職員への連絡・緊急対応の必要性が判断できるようにするための知識である。</p> <p>【本テキストの内容について】 初めて医行為を実施する介護職員のための学習内容として、疾患や症状の具体的な原因など病態学・生理学的な内容ではなく、状態像の変化としてイメージ・理解できるようにすることに重点をおいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●呼吸困難の状態については、実演(肩呼吸や口すぼめ呼吸など)を交えた解説を加えることも効果的である。 ●「呼吸の異常を発見したこと」「呼吸の異常の判断が起りやすかった場面」や「呼吸の異常の判断に困った経験」「『言語によるコミュニケーションが困難な人』『高齢者』『子ども』などの場合の呼吸状態の変化」などについて、事例を提示したり、受講生のこれまでの介護の経験から発表やディスカッションの場を設けることで、経験を共有し、理解を促すとともに現場で知識を活かせるようにする。
3. たんの吸引とは	<p>【講義の必要性】 単に「たんの吸引」の行為を理解するのではなく、たんを生じて排出するしくみや利用者の状態像を踏まえた理解を促すための知識である。</p> <p>【本テキストの内容について】 初めて医行為を実施する介護職員のための学習内容として、病態学・生理学的な内容に深く入り込まず、確実な理解できるよう焦点化した内容としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実際の場面として、たんの吸引が必要なのか、そうではないのかということに遭遇する可能性があるため、特に「たんの吸引が必要な状態」については、事例などを提示しながら説明することが効果的である。

<p>4. 人工呼吸器と吸引</p>	<p>【講義の必要性】 基本的な吸引に関する知識に加えて、人工呼吸器装着者の吸引では、装着方法や装着経路にも種類があり、留意点もそれぞれ異なる上、人工呼吸器とそのしくみ・留意点・危険性などの知識が必要である。人工呼吸器を必要とする利用者では、適切な機器管理や吸引が実施されなければ致命的な状態に陥ってしまう危険性もあり、確実な知識習得が必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 初めて医行為を実施する職員員にとって、吸引に加えて、人工呼吸器・気管カニューレなどの医療機器に関する内容までの知識が必要となる。人工呼吸器装着者の吸引では、わずかなミスが利用者の致命的な状態につながりかねない。 内容は、人工呼吸器の操作や判断の習得を目的とした内容ではなく、吸引に関連する多くのリスクを最小限にするために必要な知識に重点をおいている。 (※介護職員等は、吸引の実施は行うが人工呼吸器管理を行うわけではない。このことを明確に区別して、人工呼吸器管理・気管カニューレ管理に必要な知識ではなく、安全性確保のために必要な知識の記載を重要視している)</p>	<p>●テキストの文章や図のみでは、人工呼吸器・気管カニューレのしくみや人工呼吸器・気管カニューレを装着している状態などが想像し難いため、パワーポイントや板書等により、大きめの図または写真を使用して、指し示しながら丁寧に説明する。</p> <p>●可能であれば、実際の人工呼吸器機器や気管カニューレを見たり触れたりできるようにする。</p> <p>●特に、起こりうる危険性や危険予防のために必要なこと(医療職との連携含む)などの重要点については講義の最後のまとめや、受講生への問いかけ・質疑応答を行う。</p> <p>●医療機器に関する留意点・生活支援上の留意点、吸引時の留意点、緊急時対応など危険性を説明したうえで留意点を説明しており、内容が重複している箇所があるが、説明意図が異なる。この点は重要点であり、繰り返し説明することが望ましい。</p>
<p>5. 子どもの吸引について</p>	<p>【講義の必要性】 子どもの吸引に特徴的な危険性(呼吸量が少ないため陰圧がかかりやすい、泣いている時の吸引等)を理解することが重要である。</p>	<p>●子どもの身体の大きさなどをイメージしやすいように表現上で工夫し、子どもに用いる物品を実際に用いて、理解を促す。</p> <p>●子どもに対する声かけ、説明の仕方などをデモンストレーションするとよい。¹⁾</p>
<p>6. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p>	<p>【講義の必要性】 吸引を必要とする利用者および家族の気持ちを理解して信頼関係を築いた上で実施することが重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 吸引を必要とする利用者や家族が抱く気持ちの主な例を挙げている。また、気持ちに寄り添うことの重要性、説明と同意の重要性の説明に重点をおいている。</p>	<p>●受講生のこれまでの介護の経験から、かかわってきた利用者に関する発表や講師の経験に基づく事例(例えば、拒否がある利用者など)の提示を通して、気持ちの理解や対応(実際の説明方法や声かけなど)についてディスカッションの場を設けることで、理解を促すとともに現場で知識を活かせるようにする。</p>
<p>7. 呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)</p>	<p>【講義の必要性】 吸引行為や機器管理によっても呼吸器系の感染を招く危険性があり、場合によっては重篤な感染症につながることを十分理解した上で実施することが必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 吸引に関連する呼吸器系の感染に焦点化した内容としている。吸引行為に関連して感染予防のために注意すべき点を習得することに重点をおいている。</p>	<p>●本項目は非常に重要な内容であるため、第4章「清潔保持と感染予防」の内容の振り返りも踏まえつつ、実際の吸引操作および吸引前後で留意すべき点について、再確認する。これらの点については講義の最後のまとめや、受講生への問いかけ・質疑応答を行う。</p>

1) 引用・参考文献

- ・佐藤里織, 香西慰枝: (2007)『吸引』『小児看護』30(4) へるす出版
- ・倉田慶子: 平田美佳, 染谷奈々子 編(2009)『ナースのための早引き子どもの看護 与薬・検査・処置ハンドブック』ナツメ社
- ・沖高司, 熊谷俊幸 編(2008)『小児・障害児(者)のための在宅医療マニュアル』金芳堂

<p>8. たんの吸引、事後の安全確認</p>	<p>【講義の必要性】 適切で確実なたんの吸引の実施が行われないことによって様々な危険性があるということ、危険性を最小限にするために、医療職との確実な連携の必要性があることを理解する必要がある。</p> <p>【本テキストの内容について】 危険の種類を提示した上で、実際の事例や対応がイメージできるように対応例を提示している。</p>	<p>●実際に、ヒヤリハット事例を提示してヒヤリハット報告書用紙に記載してみたり、ヒヤリハットが起こった原因についてグループディスカッションをすることによって理解を深める。</p>
<p>9. 急変・事故発生時の対応と事前対策</p>	<p>【講義の必要性】 吸引を必要とする利用者のケアを行う上で、緊急を要する場面に遭遇する可能性がある。緊急性を判断することは非常に困難であるが、的確な対応ができなければ生命の危険性もあり、十分な理解が必要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 緊急性の判断は非常に困難であるため、「状態像」の変化から判断できるような内容に重点をおいている。緊急を要する状態は確実な理解ができるよう焦点化している。医療職との連携体制についても、他項目のテキスト内容との重複もあるが、行動化できるようにするために必要な内容である。</p>	<p>●実際に、緊急を要する状態の事例を提示して、自分がどのように行動するのかシミュレーションできるように、受講生への質問を取り入れたり、ディスカッションをする。</p>

第7章 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
<p>1. たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持</p>	<p>【講義の必要性】 吸引の器具・器材とそのしくみ・管理方法を的確に学ぶことは、安全で確実な吸引のために重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 使用物品やその管理方法は、実施機関によって異なる可能性があるため、いくつかの方法を提示しているが、詳細な記載(数値など)はしていない。実施機関の具体的方法を補足しながら説明することが望ましい。</p>	<p>●吸引器や器具・器材および消毒薬等は、実施機関によって使用する物や方法が異なる可能性がある。実際に使用する可能性の高い物品などを提示したり、触れられる機会を設けるなどの工夫をする。</p> <p>●実物を提示すると同時に質疑応答を行う。</p>
<p>2. 吸引の技術と留意点</p>	<p>【講義の必要性】 実際の吸引の技術の一連の流れと各段階での留意点を確実に理解することが、安全で確実な吸引のために重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 本項は、実施の流れに従った説明と留意点を示している。「手引き」の解説としてもリンクする内容である。</p>	<p>●本項は、実施の流れを示す「手引き」の内容をリンクする部分であり、適宜、手引きとの照合をしながら説明することも可能である。</p> <p>●実際の手技の部分に加えて、その前後の実施内容(観察や報告など)についても一連の流れをデモンストレーションしたり、受講生に経験してもらう機会を設ける。</p>
<p>3. たんの吸引に伴うケア</p>	<p>【講義の必要性】 吸引に関連したケアをとして効果的に吸引できるように整えることは、利用者の苦痛を最小限にするためにも重要である。</p> <p>【本テキストの内容について】 ケアをイメージ化できるように図示している。</p>	<p>●テキストの図のみでは、イメージ化しにくい可能性もあり、実際に体位を整えてみるなどのデモンストレーションや受講生に経験してもらう機会を設ける。</p>

4. 報告及び記録	<p>【講義の必要性】 医行為であるたんの吸引について、医療職への確実な報告・連絡をすること、確実な記録をすることは、利用者の安全性確保のために重要なことである。</p> <p>【本テキストの内容について】 本項の内容は、第5章「健康状態の把握」や第9章「4. 報告及び記録」のテキスト内容と一部対応しているが、たんの吸引に関する「報告内容」「記録内容」を提示している。</p>	<p>●確実な報告・記録の必要性・意味を説明する。</p> <p>●実際に、受講生が吸引についての「報告」や「記録」を経験してみる機会を設ける。</p>
-----------	---	--

第8章 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
みと は た ら き 1. 消化器系のしく	<p>【講義の必要性】 経管栄養法について学ぶための第一段階として、食物を口から取り入れ排泄までの過程を理解するために、消化器系の各器官についての名称や役割について習得することが重要である。</p>	<p>●各器官については図示や板書しながら受講生に理解しやすい方法を用いるのもよい。</p> <p>●例えば、嚥下に関しては、口唇を閉じて呼吸を止め飲み込むと、嚥下がスムーズにできることを体験させる等の方法を用いてもよい。</p>
る 2. 消化器の症状	<p>【テキストの内容について】 消化症状の代表的なものに関して、特に経管栄養に関連する内容を記載している。</p>	<p>●各症状に関して事例を用いながら説明するのもよい。</p> <p>・例えばしゃっくりをしていると、飲み込みがうまくできない。</p> <p>・しゃっくりをしていた人に時間のない介護者が食事介助をしたところ呼吸がとまったなど。</p> <p>●口をあけてつばを飲み込むとどうなるかなど、実際に試してみるのもよい。</p>
養 法 と は 3. 経管栄養	<p>【テキストの内容について】 経鼻経管栄養法や、胃ろうによる栄養法の必要性に関して、介護職が実際関わるのが初めてのことであることを念頭に置いた記載をしている。</p>	<p>●経鼻経管栄養法に用いるチューブや器具等を持参し、説明するのもよい。</p>
に 関 する 知 識 4. 注入する内容	<p>【テキストの内容について】 経管栄養法で使用される栄養剤の種類等について、具体的な物のイメージがつかめるようにイラストで示している。</p>	<p>●注入物も多くの種類があるため、実物を用い説明するのもよい。</p>
施 上 の 留 意 点 5. 経管栄養実	<p>【実施上の留意点】 経管栄養法を実施する場合、医師・看護職との連携のもとに実施されるが、介護職として知っておくべき留意点に重点をおいている。</p>	<p>●実施中や実施後に起り得る症状や合併症に関して、指導者の経験や事例を用いながら説明してもよい。</p>

6. 子どもの経管栄養について	<p>【講義の必要性】 施設や在宅で生活する子どもに対して経管栄養法を実施する際に、子ども特有の留意点を理解することが安全な実施に最も重要な点である。</p> <p>【テキストの内容】 子どもの経管栄養法はどのような特徴があるか、また、必要物品の違いや留意すべき点について示している。</p>	<p>●受講者の多くは子どもの経管栄養法の実際を実施したことが無い可能性があるため、実際の物品を提示し、具体的なイメージが持てるよう工夫する。</p> <p>●また、子どもの体に合わせたサイズのため、管が細く詰まりやすいことなど、具体的な経験を加えて話すなどの工夫をする。²⁾</p>
7. 経管栄養に関する感染と予防	<p>【講義の必要性】 実際に実施する行為とそれに伴う観察のポイントや留意事項を示すことで、日頃の予防と異常の早期発見や対応を理解することが安全につながる。</p> <p>【テキストの内容】 経管栄養法に関する消化器感染と、その予防すべき点、主に口腔ケアの重要性を示している。</p>	<p>●消化器全体がイメージできるよう、受講者の体で、口から食物が入り、肛門で排泄されるイメージができるよう講義する。</p> <p>●また、消化器の感染やその予防について日頃考えていることをディスカッションし、受講者がイメージできるような工夫をする。</p>
8. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	<p>【講義の必要性】 経管栄養法を必要とする利用者や家族の気持ちを理解し、信頼関係を築いた上で実施することが重要である。</p> <p>【テキストの内容】 経管栄養法を必要とする利用者や家族の気持ちを具体的に示し、気持ちに寄り添うことの重要性と説明と同意の重要性を述べている。</p>	<p>●講師の経験などを交えながら、自分が利用者や家族であった場合、どう感じるかなどディスカッションを交えて実施する。</p>
9. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	<p>【講義の必要性】 確実な経管栄養法を実施しないことにより様々な危険が生じる。また、危険を最小限にとどめ医療職に連絡する必要性を理解する。</p> <p>【テキストの内容】 経管栄養法における危険の種類を示した上で、その対応やヒヤリハット報告の重要性を示し、医療職との連携がイメージしやすいように記載している。</p>	<p>●実際のヒヤリハット事例を講師の経験などから説明に加え、具体例についてディスカッションしたり、グループワークをしたりするとよい。一人一人のヒヤリハットの意識の違いがあることを発見できるように工夫をする。</p>

2) 引用・参考文献

- ・倉田慶子・小野正子・草場ヒフミ 編集。(2008)『経管栄養 根拠がわかる小児看護技術』メジカルフレンド社
- ・倉田慶子。(2008)『重症心身障害児の栄養管理』小児看護.Vo131.p1119-1120. へるす出版
- ・野中淳子監修 編集(2007)『子どもの看護技術』へるす出版 東京
- ・西 寿治・江草安彦 監修(2005)『胃瘻、腸瘻の適応と外科的問題点 重症心身障害療育マニュアル 第2版』医歯薬出版株式会社

<p>10. 急変・事故発生時の対応と事前対策</p>	<p>【講義の必要性】 経管栄養法を行うことで緊急を要する場面に遭遇する場合がある。日頃から緊急性のある状態について意識的に観察することが緊急場面でも行動できることにつながり、適切に医療職と連携ができることを理解することが重要である。</p> <p>【テキストの内容】 緊急を要する状態と緊急時における対応について説明し、緊急時の対応ができるよう具体的に示している。</p>	<p>●緊急時の具体的な例を示し、それに対応するための内容について、グループワークやディスカッションを行うことでイメージを深め、理解の促進につなげるよう工夫する。</p>
-----------------------------	---	---

第9章 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説

	講義の必要性・テキスト内容について	講義の工夫
材と その しくみ、 清潔の 保持	<p>【講義の必要性】 経管栄養法の仕組みを理解し、その必要物品を確実に準備できることと、清潔の保持の方法を理解することが安全につながる。</p> <p>【テキストの内容】 経管栄養法の必要物品を確実に理解し、その管理方法や、創部の消毒方法を理解できるよう記載している。</p>	<p>●受講者には、経管栄養法を実施したことのない人もいるため、必要物品を手にとって触れてみることで、実際のイメージをしやすいように工夫する。また、実施したことがある受講者がいる場合には、事例を挙げてもらい話し合いのきっかけを作り、具体的な留意事項をイメージしやすいように工夫する。</p>
意 点	<p>【講義の必要性】 経管栄養法の一連の流れと、各手順における留意点などを理解することは、利用者の安楽と安全を確保する上で重要である。</p> <p>【テキスト内容】 本項は、実施の流れに従った説明と留意点を示している。「手引き」の解説としてもリンクする内容である。</p>	<p>●経管栄養法の実施に当たって、特に手順の留意点について「手引き」を参照しながら講義を行う。</p> <p>●受講者の気づきを「手引き」に書き込むことなどにより、受講者自らが作成した「手引き」となり、次のステップで役に立つなど意識を促す。</p> <p>●現物の物品を使ってデモンストレーションを行い、イメージしやすいように工夫する。</p>
要 な ケ ア	<p>【講義の必要性】 経管栄養法を効果的に実施することは利用者の苦痛を軽減し、安全を確保するために重要である。</p> <p>【テキストの内容】 消化機能を促進するための体位の工夫やケアを分かりやすく説明している。</p>	<p>●受講者にデモンストレーションをするなどして、実際のイメージが膨らむように工夫する。</p>
4. 報 告 及 び 記 録	<p>【講義の必要性】 医療行為である経管栄養法について、医療職への確実な報告や記録は利用者の安全に関して非常に重要である。</p> <p>【テキスト内容】 この内容は第5章「健康状態の把握」や第7章「4. 報告及び記録」のテキスト内容と対応しているが、経管栄養法に関する「報告内容」および「記録内容」を示している。</p>	<p>●講師の経験などを交えながら、実際の症例を示し、ディスカッション形式でどんな報告が必要か、また、報告書に何を記載するかなどイメージをしやすいように工夫する。</p>